

Abstract

本研究は、集団主義社会では個人主義社会に比較し他者一般に求める信頼性が高くなるという理論仮説のもと、日本においてアメリカよりも、相手が信頼に値すると判断する信頼の閾値が高くなると予測し、大学生を対象とした質問紙調査を実施した。その結果、予測と一貫して信頼の閾値は日本においてアメリカよりも高いことが示された。また一般的ナリスクテイキング傾向には社会差が見られなかったため、信頼の閾値の社会差は一般的ナリスク回避傾向の違いでは説明されないことが確認された。これらの結果は、集団主義社会の一つである日本において、他者の信頼性に関する期待値と一般的ナリスク回避傾向を統制したとしても見知らぬ他者を信頼する傾向が相対的に低いこと、またこの傾向は従来の比較文化研究において指摘されてきた一般的ナ不確実回避傾向の社会差に還元されないことを示している。